

平成23年(2011年)11月21日
山口県病虫害防除所

- 1 病虫害名 トビイロシワアリ *Tetramorium tsushimae*
- 2 作物名 アブラナ科野菜 (はなっこりー・キャベツ)
- 3 特殊報の内容 被害の新発生

4 発生経過

- (1) 発生確認月日: 平成23年9月28日
- (2) 発生地域: 下関市、山口市、岩国市
- (3) 発生状況:

ア 平成23年9月に下関市吉見のはなっこりー、山口市および岩国市のキャベツ栽培ほ場で株が萎凋し枯死する症状が発生した。被害株の地際の土を取り除くと、多数のアリと食害痕が確認された。

被害株から採取したアリについて、神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、トビイロシワアリであることが確認された。

イ 本種は、屋久島以北の日本各地に分布し、西南日本では最も普通に見られる種である。農作物に被害をもたらした事例は西日本を中心に7県から報告があり、キャベツ、ブロッコリーその他、ハクサイ、バレイショ、ナス(幼苗)およびアスターで被害が発生している。

(4) 被害の特徴

株元に土を盛り、地際の茎や根の表皮を食害し、くぼんだ食害痕を形成する。被害が進むと茎の外周が帯状に削り取られたような食害痕となる。食害を激しく受けた株は、萎凋、枯死する。

県内で確認した被害は、ほ場の外周部に発生しており、定植後に畦畔から侵入したと考えられる。



図1 被害株 (はなっこりー)



図2 トビイロシワアリ (働きアリ)



図3 株元に土を盛ってアリが寄生
(はなっこりー)



図4 株元の被害
(キャベツ：アリによる盛土は除去)



図5 被害ほ場全景
(はなっこりー：畦畔沿いの列は欠株となっている)

5 本害虫の特徴

(1) 形態

働きアリの体長は約2.5mm。体色は褐色から黒褐色。頭部および胸部の表面は縦じわに覆われる。

(2) 生態

雑食性で、昆虫などの屍体、雑草の子実や発芽直後の芽、植物の甘露、樹液などを食する。比較的乾燥した場所を好み、日当たりのよい裸地や草地などで、草の根元、石の下や腐朽木中に巣を作る。巣の規模は大きく、1つの巣に多数の女王を有する。

6 防除対策

深耕、ほ場周辺の除草や灌水による巣の破壊など、物理的・耕種的防除に努めるとともに、灌水等で作物の活着及び生育を促進して被害軽減を図る。

はなっこりー、キャベツおよびその他の農作物において、トビイロシワアリに適用のある農薬はない(平成23年11月17日現在)。